

県立高校の特色化・魅力化（県外募集）の取組について

平成 30 年 6 月 11 日

高等学校課

1 背景

近年、中山間地域の児童・生徒数の減少等により、入学者が募集定員に満たない学校があるという現状を県教育委員会として認識し、魅力と活力ある学校づくりに取り組むとともに、入学者数の確保に努めていくことが必要である。

平成 28 年度入学者選抜からは、推薦入試における県外生徒募集を実施しており、県外から目標を持った生徒の入学により、学校のより一層の活性化を図ることとしている。

また、主に中山間地域等に所在する高校においては、入学した生徒の育成を期して「地域と連携した学校の特色や魅力づくり」にも力を入れているところであり、地元自治体の協力の下、地域の資源等を学校の教育活動の中で最大限に活用する方策を模索しながら教育活動の中に位置づけて体系的・組織的な取組の展開を進めているところである。

2 学校の特色化・魅力化の推進

(1) 県立高等学校重点校制度の導入 <別添 2>

各校が重点的に取り組むべき項目を県教育委員会が指定（重点校指定）。学校裁量予算独自事業に「重点校枠」を設けて積極的な予算配分を行い、各校の取組を支援。

(2) コース、類型の新設・改編、学校設定科目等の設置

生徒の多様な進路希望に対応するとともに、学校の特色化を図るためコースや類型の新設・改編（理科看護・バイオ類型など）や、地域を知り、その課題を考えるとともに、解決策を模索するよな学校が任意に設けられる学校設定科目（青谷学、セラピー基礎など）を導入。

(3) 地元自治体との地域連携事業の実施

地元自治体の協力も得ながら、学校が地域活性化の一翼を担うため地域資源や地域人材を活用した取組を実施。また、地域住民等の考えや地域の特性を活かした魅力ある学校づくりのため学校運営や学校の課題解決に関し、広く保護者や地域住民が参画できる仕組「コミュニティ・スクール」の導入を現在、検討中。

3 入学生徒数確保に向けた取組状況（県外生徒の募集）

(1) 現状 <別添 3>

○県外からも目標を持った生徒が入学することで、学校のより一層の活性化を図るため、平成 28 年度から推薦入試における県外生徒の募集を開始し、募集定員は平成 28 年度の 5 校 11 名から平成 30 年度には 8 校 36 名まで拡大。また、入学者数も平成 28 年度が 4 名、平成 29 年度が 10 名、平成 30 年度が 14 名と徐々に増加。

○これまでの県外からの入学者はスポーツ推薦が多く、生徒の勧誘は運動部顧問等による個別の働きかけが主体となってきたが、平成 29 年度からは県移住説明会への参加等により保護者等に向けた県外生徒募集の PR 活動を積極的に実施している。

(2) 課題等

ア 県外生徒を募集している高校のうち寮を有するのは 3 校のみであり、寮を有しない学校では必要の都度、民間のアパートや旅館、空き家の活用やホームステイにより対応しているが、県外生徒を受け入れるための住環境が十分に整っていない。

イ 現行の規則では、県立高校への通学は県内に居住していることが条件となっており、県外からの生徒は自宅からの通学が可能であっても、入学前には県内に住民票を移す必要がある。

(3) 課題への対応と今後の取組

ア 県外生徒受入れのための住環境整備

県外生徒の受入人数が少数であり、当面は新規の施設整備が難しいため、地域との連携や地域の実情を考慮し、住環境の提供を次のとおり進めているところ。

なお、実際の受入に当たっては、単に住居をあっせん、提供するだけでなく、保護者が安心して子どもを預けられるよう、生徒の秩序と規律ある生活を監督し、有事等に対応できる管理者の配置、食事の提供等が必要。

区分	対応	進捗状況等
民間活用	民間事業者（不動産業者・宅建業協会）の活用	民間の不動産を活用した県外生徒への住居（シェアハウス等）の提供方法を検討中。
	旅館の活用	八頭高校の県外出身の男子生徒2名が今年4月から近隣の旅館に入居。
地域連携	私立高校の寮活用	私立倉吉北高校の寮の空室を県立高校の生徒が利用できないか交渉中。
	ホームステイの活用	八頭高校の県外出身の女子生徒1名が部活動の〇B宅に今年4月からホームステイを開始。
県営	地元自治体と連携した寮運営	閉鎖していた日野高校双葉寮は、進学希望者向けの学習指導機能を付加し、今年5月に再開。寮の運営に関する舎監の人件費は、町の財政支援を受けている。

イ 通学条件

中山間地域等で定員割れが生じている県立高校において、県外からでも積極的に生徒募集できないか、方策を検討中。

ウ その他

- 県外事例の視察結果や、これまでの検討状況を踏まえ、鳥取県教育審議会など有識者を交えた場で議論を行い、本県としての県外生徒募集の推進方針や受入環境整備の在り方を検討。
- 地元自治体との連携により、県外の優秀なアスリートが本県の県立高校に安心して進学できる体制を整備するため、地元自治体とともに当該県外生徒に対する住居費を助成。
- 前年度からの県移住定住説明会への参加に加えて、大都市圏において進学者を勧誘するための高校説明会を開催予定。

(参考：県外生徒の募集等に係る近隣県での取組事例)

<島根県>

- 県外募集実施校19校のうち16校において寮が整備されている。 <別添4>
- 寮には基礎自治体の整備によるものもあり、基礎自治体の支援が手厚い。 <別添5>
- 大都市圏における移住定住説明会のほか東京私塾協同組合主催の受験相談会への参加、「しまね留学」説明会の単独開催によりPR活動を実施。説明会には高校のほか小中学校や山村留学を推進する団体も参加。
- 夏休み時期には、希望者を対象とした高校を回るバスツアーを実施。訪問校では説明会やオープンスクールを開催（バス代、宿泊費のみ県負担）。

<徳島県>

- 学校併設の寮に加えて、複数校の生徒が起居する総合寄宿舍が県内4か所に整備。

平成26年度以降の県立高校における定員数・生徒数の変遷(全日制課程)

区分	学校名	年度	26	27	28	29	30
東部地区	鳥取東	定員	280	280	280	280	280
		入学者数	281	282	283	283	284
		充足率	100.4%	100.7%	101.1%	101.1%	101.4%
	鳥取西	定員	320	320	280	280	280
		入学者数	320	319	283	283	281
		充足率	100.0%	99.7%	101.1%	101.1%	100.4%
	岩美	定員	114	114	114	114	114
		入学者数	75	86	85	58	51
		充足率	65.8%	75.4%	74.6%	50.9%	44.7%
	八頭	定員	280	280	280	280	280
		入学者数	277	274	281	271	266
		充足率	98.9%	97.9%	100.4%	96.8%	95.0%
	鳥取商業	定員	190	190	190	190	190
		入学者数	164	174	193	165	192
		充足率	86.3%	91.6%	101.6%	86.8%	101.1%
	鳥取工業	定員	190	190	190	190	152
		入学者数	154	174	161	168	147
		充足率	81.1%	91.6%	84.7%	88.4%	96.7%
	鳥取湖陵	定員	190	190	190	190	190
		入学者数	192	163	183	175	186
		充足率	101.1%	85.8%	96.3%	92.1%	97.9%
智頭農林	定員	80	80	80	80	80	
	入学者数	55	53	35	45	41	
	充足率	68.8%	66.3%	43.8%	56.3%	51.3%	
青谷	定員	114	114	114	114	114	
	入学者数	92	75	46	86	68	
	充足率	80.7%	65.8%	40.4%	75.4%	59.6%	
小計	定員	1,758	1,758	1,718	1,718	1,680	
	(増減)	▲78	0	▲40	▲40	▲38	
	入学者数	1,610	1,600	1,550	1,534	1,516	
	(増減)	▲108	▲10	▲50	▲66	▲34	
	充足率	91.6%	91.0%	90.2%	89.3%	90.2%	

区分	学校名	年度	26	27	28	29	30
西部地区	米子東	定員	320	320	320	320	320
		入学者数	320	320	320	320	320
		充足率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
	米子西	定員	320	320	320	320	320
		入学者数	320	321	322	321	320
		充足率	100.0%	100.3%	100.6%	100.3%	100.0%
	境	定員	200	200	200	200	200
		入学者数	201	200	202	202	200
		充足率	100.5%	100.0%	101.0%	101.0%	100.0%
	米子南	定員	152	152	152	152	152
		入学者数	152	152	153	145	151
		充足率	100.0%	100.0%	100.7%	95.4%	99.3%
	米子工業	定員	190	190	190	190	190
		入学者数	192	189	190	190	188
		充足率	101.1%	99.5%	100.0%	100.0%	98.9%
境港総合技術	定員	190	190	190	190	190	
	入学者数	190	182	189	151	157	
	充足率	100.0%	95.8%	99.5%	79.5%	82.6%	
米子	定員	152	152	152	152	152	
	入学者数	152	152	152	152	152	
	充足率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	
日野	定員	76	76	76	76	76	
	入学者数	62	55	58	44	51	
	充足率	81.6%	72.4%	76.3%	57.9%	67.1%	
小計	定員	1,600	1,600	1,600	1,600	1,600	
	(増減)	▲38	0	0	0	0	
	入学者数	1,589	1,571	1,586	1,525	1,539	
	(増減)	39	▲18	15	▲46	▲47	
	充足率	99.3%	98.2%	99.1%	95.3%	96.2%	

区分	学校名	年度	26	27	28	29	30
中部地区	倉吉東	定員	200	200	200	200	200
		入学者数	200	201	193	201	197
		充足率	100.0%	100.5%	96.5%	100.5%	98.5%
	倉吉西	定員	160	120	120	120	120
		入学者数	153	122	122	120	117
		充足率	95.6%	101.7%	101.7%	100.0%	97.5%
	鳥取中央育英	定員	160	160	160	160	160
		入学者数	160	133	151	153	160
		充足率	100.0%	83.1%	94.4%	95.6%	100.0%
	倉吉農業	定員	114	114	114	114	114
		入学者数	98	109	86	76	86
		充足率	86.0%	95.6%	75.4%	66.7%	75.4%
	倉吉総合産業	定員	190	190	152	152	152
		入学者数	183	187	150	153	142
		充足率	96.3%	98.4%	98.7%	100.7%	93.4%
小計	定員	824	784	746	746	746	
	(増減)	0	▲40	▲38	▲38	0	
	入学者数	794	752	702	703	702	
	(増減)	23	▲42	▲50	▲49	0	
	充足率	96.4%	95.9%	94.1%	94.2%	94.1%	

	年度	26	27	28	29	30
全県	定員	4,182	4,142	4,064	4,064	4,026
	(増減)	▲116	▲40	▲78	▲78	▲38
	入学者数	3,993	3,923	3,838	3,762	3,757
	(増減)	▲46	▲70	▲85	▲161	▲81
	充足率	95.5%	94.7%	94.4%	92.6%	93.3%

鳥取県教育委員会「県立高等学校重点校」制度実施要項

鳥取県教育委員会

1 目的

各高等学校が重点的に取り組むべき項目を県教育委員会が指定（重点校指定）し、予算を手厚く配分する等の支援をすることで、各高等学校の特色化・魅力化をより一層推進するとともに、以下に掲げる本県教育施策等の実現を図る。

- I 鳥取県の「教育に関する大綱」に掲げる取組方針・施策、指標達成の実現
- II 「今後の県立高等学校の在り方に関する基本方針 [平成31年度～平成37年度]」の具現化
- III 「高大接続改革」への着実な対応

2 重点校の種類及びその決定・更新について

各高等学校の重点項目は別表のとおりとし、県教育委員会と各高等学校で協議の上、1校当たり1～3程度の重点項目を指定する。

各重点項目の指定期間は2年間とし、4（2）の県立高等学校重点校制度に係る成果報告書（様式2）（更新前2年間分）の内容等を踏まえながら、指定の更新又は中止を決定する。なお、新たな重点校の指定は、指定前2年間の成果を踏まえて決定する。

3 重点校に対する支援

（1）学校裁量予算独自事業について

各高等学校の重点項目の実現に向けた事業に対する支援を行う「重点校枠」を設置するなど、積極的な予算配分を行う。

（2）県教育委員会所管事業（学校裁量予算独自事業を除く）について

各高等学校の重点項目の実現に向けた必要性、意義等が認められる事業等について、予算等（人員配置、施設等の整備を含む）を手厚く配分するとともに、新規事業（モデル校設置等）を実施する場合の対象校とする。

4 重点校に求める成果

（1）県立高等学校重点校制度に係る事業計画書の作成

本制度は、本県教育施策等の実現に向けた取組であることに鑑み、事業実施前年度の12月頃を目途に、各高等学校は、県教育委員会と重点項目に係る目標等を協議の上、県立学校重点校制度に係る事業計画書（様式1）を提出する。

（2）県立高等学校重点校制度に係る成果報告書の提出

事業実施年度終了後、各高等学校は、県教育委員会に県立高等学校重点校制度に係る成果報告書（様式2）を提出する。

（3）その他

各高等学校は、重点項目に関する各種関係会議への参加、成果発表などに協力する。

5 その他

この要項に定めるもののほか、「県立高等学校重点校」制度の運用に関し必要な事項は別に定める。

附則

この要項は、平成29年9月13日から施行する。

(別表)

平成30年度県立高等学校重点校に係る重点項目一覧

鳥取県教育委員会

重点項目	概要
大学進学重点校	国公立大学等を中心とした大学への進学に対応した教育課程を編成するなど生徒の着実な学力の伸長を図り、生徒の進学希望を実現するため、進学実績を向上させる。
英語教育重点校	大学入試改革に向けた先進的取組や英語授業改革等、学校独自の特色ある取組を実施し、意欲ある生徒の英語力を更に伸ばす取組を組織的に行う。
基礎学力向上重点校	義務教育段階の学習内容を含めた高校生に求められる基礎学力の確実な習得と学習意欲の喚起を図るとともに、カリキュラム・マネジメントの確立を図り、その取組を体系化し他校に普及させ、県立高校教育の質の確保・向上を図る。
アクティブ・ラーニング推進重点校	次期学習指導要領の改訂や高大接続改革の動向を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)」の視点に立った授業の研究などを行い、全県立高校に向けての成果発信やモデル的取組の提案を行い、本県授業改革を推進する。
I C T活用教育重点校	タブレット型端末をはじめとしたI C T機器の特徴を生かし、授業等での積極的な活用に加え、県モデル事業の実践など先進的な取組を推進するとともに、学校C I Oを中心とした組織的な推進体制を構築し、他校への普及を図る。
キャリア教育重点校	学校の特色や地域の実状を踏まえつつ、子どもたちの発達段階にふさわしいキャリア教育を推進し、社会的・職業的に自立し、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現するための力を育成する。
専門人材育成重点校	地域の産業界や教育機関等と連携し、社会で求められる多様な知識・技術や、専門的な資質・能力を生徒に習得させ、6次産業化など地域産業の担い手としての意識や自覚を育み、もって地域に貢献する人材を育成する。
特別支援教育重点校	各生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点で、生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、生徒に対する適切な指導及び必要な支援を行い、特別支援教育における県立高校の拠点となる。
スポーツ・文化芸術活動重点校	部活動の振興等を通して、生徒の個性の伸長や人間性の育成を図るとともに、目的意識の高い生徒の受入を推進するなど、特色ある学校づくりを一層推進する。
地域連携重点校	地域と学校が相互の資源等を学校の教育活動の中で最大限に活用し、これを教育の中に位置付けるとともに、体系的・組織的な取組として展開し、学校の特色化・魅力化を推進する。
県外生徒募集重点校	学生寮等を活用しながら、学校の求める生徒像に応じた、目標を持つ県外生徒をより積極的に受け入れることで、入学生徒を確保するとともに、学校の活性化を一層推進する。

県立高校における県外募集の取組

高等学校課

1 県外生徒募集枠・受検者数・入学者数の推移

高等学校名	小学科 (コース)	募集 生徒数	H28			H29			H30		
			県外 生徒 募集枠	受検 者数	入学 者数	県外 生徒 募集枠	受検 者数	入学 者数	県外 生徒 募集枠	受検 者数	入学 者数
岩 美	普通	114	—	—	—	3	3	3	5	2	2
八 頭	普通(体育)	40	2	3	3	2	1	1	4	5	5
智 頭 農 林	ふるさと創造	80	4	1	1	4	4	4	4	0	0
	森林科学										
	生活環境										
倉 吉 農 業	生 物	38	1	1	0	1	0	0	2	0	0
鳥取中央育英	普通(体育)	40	2	0	0	2	2	2	4	7	7
境	普通	200	2	0	0	2	0	0	2	0	0
境港総合技術	海 洋	38	—	—	—	—	—	—	2	0	0
	食品・ビジネス	38	—	—	—	—	—	—	2	0	0
	機 械	38	—	—	—	—	—	—	2	0	0
	電 気 電 子	38	—	—	—	—	—	—	2	0	0
	福 祉	38	—	—	—	—	—	—	2	0	0
日 野	総合(進学系列)	76	—	—	—	3	0	0	5	0	0

2 平成30年度入学者選抜(推薦入試)における県外中学生の出願を認める学科等>

学校名	県外中学生の出願を認める学科	県外生徒 募集枠
岩 美	普通学科普通科(ただし、女子バレーボール又は野球の経験者で、入学後には当該部活動に入部し、積極的に活動する生徒)	5人
八 頭	普通学科普通科体育コース(ただし、柔道(男)・剣道(男)・ホッケー(男女)を志願する生徒)	4人
智 頭 農 林	農業学科ふるさと創造科・森林科学科・生活環境科	4人
倉 吉 農 業	農業学科生物科	2人
鳥取中央育英	普通学科普通科体育コース	4人
境	普通学科普通科(入学後は意欲的に運動部活動(陸上・ヨット・ハンドボール・硬式野球及びサッカー)に取り組む生徒)	2人
境港総合技術	水産学科海洋科、水産学科食品・ビジネス科 工業学科機械科、工業学科電気電子科、福祉学科福祉科	10人 (各科2人)
日 野	総合学科(ただし、以下の2つの条件を満たす者) ・ソフトテニスに優れた能力を有する、あるいは射撃、郷土芸能に積極的に取り組む意欲がある生徒。そして、入学後は3年間継続して前述の部活動に所属し、部活動に取り組む意志が強固である者。 ・総合進学系列に進み、将来、大学等の上級学校への進学を目指す者。	5人
合 計		36人

3 平成30年度における県外からの生徒の状況等

高等学校名	県外からの 生徒人数	寮の 有無	住居
岩 美	2名	×	岩美町内の空家【2名】 ※岩美町から月額1万円の助成有
八 頭	5名	×	顧問と同じ八頭町内のアパート【2名】 旅館【2名】 ホームステイ【1名】
智 頭 農 林	0名	×	
倉 吉 農 業	0名	○	
鳥 取 中 央 育 英	7名	○	学校寮【7名】
境	0名	×	
境 港 総 合 技 術	0名	×	
日 野	0名	○	

4 県外生徒受入に向けた取組状況

(1) 広報資料の作成、インターネット等を活用した広報

○県外募集ホームページの作成【平成28年度～】

推薦要件一覧、県外生徒募集用パンフレット（「輝け！夢 県外募集編」）、県移住定住イベント参加予定等を掲載

○パンフレット作成（「輝け！夢 県外募集編」）【平成29年度～】

県外募集実施校の特色や求める生徒像、本県教育の特色等を記載した資料を作成し、関係機関への送付、各種説明会で配布のほかホームページにも掲載。

（平成29年度配布実績）

- ・ 県移住定住相談会での配布
- ・ 広島県及び岡山県での鳥取県人会総会での配布
- ・ ふるさと鳥取ファンクラブへの配布

(2) イベント参加・実施

○県移住定住相談会への参加【平成29年度～】

公益財団法人ふるさと鳥取県定住機構が企画する大阪での移住定住イベント（9月及び10月）に県教育委員会及び県外募集実施校が参加し、県外募集の取組を周知するとともに、移住定住の際の教育への相談にも対応。

→平成30年度は、5月（東京）及び6月（大阪）で開催される大規模イベントに参加。

○県外生徒募集高校説明会の開催【平成30年度～】

東京及び大阪で、県外生徒募集に関する県内高校単独の説明会を開催。

→移住定住相談会には、ターゲットとなる中学生（及びその保護者）の参加が少ないことから、高校における県外募集に特化した説明会を開催。

→県立高校だけでなく、県外生徒募集を実施する私立高校にも参加を呼び掛けるとともに、鳥取県産品を試食する取組なども加え、鳥取県の魅力をアピールしながら、県立高校のPRを行う。

<別添4>

島根県立高等学校における県外募集実施校19校の寮の状況(H29年度)

高等学校課

高等学校名	寮定員	補足	入寮者数	島根 留学生 (全学年)	入学定員 (第1学年定員)
安来	20	・安来市から提供されたアパート形式の施設。 ・安来高校と情報科学高校が共有	6	2	160
情報科学				2	120
大東	なし	・生徒数人で共同生活を営むシェアハウス ・下宿	なし	2	120
横田	32		19	19	120
三刀屋	80		21	3	160
飯南	56		47	21	80
邇摩	情報なし				120
島根中央	126	県立の寮 + 町立の寮	120	80	120
矢上	86		79	45	90
江津	なし	下宿	なし	2	80
江津工業	92		9	2	80
浜田商業	なし	アパート	なし	1	80
浜田水産	30	男子寮のみ	28	28	80
益田翔陽	80		23	33	160
吉賀	32	町営の寮	20	15	40
津和野	64		54	55	80
隠岐	32		12	11	90
隠岐島前	92		85	74	80
隠岐水産	76		64	48	80

島根県での取組事例（島根県立島根中央高校の概要及び地元自治体の支援）

1 島根中央高校の概要（平成30年5月時点）

- (1) 所在地 島根県邑智郡川本町川本222番地
- (2) 学科編成等 普通科 1学年当たり定員90名（3学級）
- (3) 生徒数 241名 川本町出身者53名 県外中学校出身者81名

※県外中学校出身者内訳

栃木1、千葉2、東京10、神奈川3、愛知2、京都2、大阪21、兵庫22
奈良2、岡山2、広島7、福岡2、福島1、埼玉2、山口1、香川1

(4) 主な特色

①授業外学習サポート「進学ゼミ」

「国公立大学・難関私立大学・医学部医学科合格」を目標に本気で勉強に打ち込みたい生徒を対象とした勉強集団。校内に整備された学習ルームを自由に利用できるほか、東京研修や予備校の講習、県外大学のオープンキャンパスなどに後援会の助成を受けて参加。

平成27年度からは1、2年生を対象とした公務員試験対策指導をスタート。外部から講師を招き、平日放課後に定期的に講座を開設。

②地域に貢献できる部活動

全校生徒の部活動加入率は90%以上。カヌー一部は島根県内に2校しかない特色ある部活動で、入学後にカヌーを始めた生徒も全国大会に出場。地域系部活動「しまんーchu!」は7つの文化部部員が集まって地域へ出かけ、それぞれの特技を生かして地域の方々との関わりを深めている。

③2つの学生寮

県が整備した寮に加え、川本町が閉校となった小学校を利用して平成26年度に整備した「学習交流センター」も寮として活用。

2 川本町からの支援（平成30年度予算）

(1) 島根中央高校への支援（3,662万円）

<支援内容>

学力向上・部活動強化等 493万円、就学助成48万円、情報発信等259万円
専用スクールバス496万円、専任職員等912万円、通学費助成1,454万円

※このうち786万円は国特別交付税で措置。

(2) 学習交流センター運営事業（3,877万円）

県外から島根中央高校へ入学する生徒の生活する場（寮）であるとともに、空き教室を利用し、民間事業者による配信型学習塾等も開校されるなど「学び」を通じた交流施設である「学習交流センター」を管理する。

<主な経費>

運営委託費等 2,600万円、光熱水道費748万円、工事費317万円、役務費等212万円